



〈剣の道と三殺法〉



■ 一般財団法人認可に伴い、連盟会長から新春挨拶の中で、私達が抜刀道を学び修練する上での、本連盟の「刀法と心構え」について貴重な教訓を戴いた。  
インターネットが発達し、国の内外に即発信される現代社会。抜刀道を豊み莫塵を日本刀で斬り競技する武道と勘違いされない為にも、ここで本連盟が修練する抜刀道は、日本武道の原点であり「正統抜刀道」として、後世に残す本連盟の姿に触れてみたい。  
■ 本連盟の制定刀法は、刀法の原点を『現代剣道・居合道』と同様に、古武道各流派に求めている。従って各技は、互角の腕を持つ武士同士の「真剣勝負」を想定した刀法の一面である。  
従って、制定刀法教本をみると「気攻め・すり上げ・払い・すり足・運び足」等々の言葉が多々出てくるが、仮標を「刀を構えた相手」とみなし、対峙したときの「剣の理合いに基づく「技」であり、相手の動きを事前に察して「先手を取って」攻撃する事を想定した刀法であることを念頭に修練すると、ただ単に仮標に向かっただけの試斬ではなく、武道としての「刀法所作」の「心・技」の醍醐味に触れる事が出来る。

■ 【三殺法】と「先」  
互角の相手と対峙し、真剣勝負或いは試合を行う時：相手の「剣を殺し」・「技を殺し」・「気を殺す」ことを、剣道では「三殺法」と言う。

- ▼ 《剣》を殺すとは：相手の剣を左右に押さえ、巻き、払うなどして、剣の自由を殺す。
- ▼ 《技》を殺すとは：相手に技を使わせない様に「先」を取り、隙をみつけて、攻めるなど、対峙した相手に対し、技を施す余地をなくすことである。
- ▼ 《気》を殺すとは：絶えず全身に、気力を漲（なみ）らせて「先」の気力を以て相手の気を殺す事を言う。
- ▼ 《先》とは：先という意味は、相手と対峙し剣を交えた時、相手の動きの機先を制することである。
- ▼ 《先》には：「先々の先・先前の先・後先の先」と：「三つの先」がある。

■ 《先》に対し「後」がある。《後》と言うのは、機先を制しようとして出てきたところを抑え、逆に勝ちを制することを言う。しかし「理合いと技」理屈は理解出来ても相手と対峙した時の実践は難しく、ここに「修練度」の「重みと深さ」が気位が生まれてくる。

■ その歴史と実績が物語る様に日本刀は、日本武士の魂を支えその精神は、日本刀の中に流れており、現代でも失われることなく今日に至っている。  
刀匠の《鉄と炎と水》との闘い。刀匠が「身を清め真心」を込めて鍛練した《入魂一刀》の：世界に類例のない鍛練の秘法は、日本歴史の秘宝であり、日本精神の粹であると言っても過言ではないと思料する。

■ さあ！…《修練と絆》《絆と連帯》をスローガンに 本部 広報部長 中島 正夫  
連盟の躍進と自分の為に頑張るって行こうではないか。 剣道 教士七段(全日本剣道連盟)

◆編集後記◆

時の流れは実に早い…。幾多の「いばらの道」を乗り越え、連盟創立から26年を迎えた…。  
一般財団法人として、先人達の「意志と情熱」を継ぎ、私達会員一同は、心新たな気持ちで、更なる躍進を求め歩み続けることをここに誓いたい…。

新規会員が増える中、ふと…本連盟の「足跡」を振り返ると…、平成3年4月5日…。抜刀道を日本の武道遺産として、眞の抜刀道の更なる「発展と継承」を標榜し、有志により連盟「新組織結成」の為の『組織運営協議会』が結成された…。

思い起こすと、小雨降る…同年《5月12日》…。協議会の呼びかけで《新組織結成発起人会》が東京神田で開催され、全国各地から「30名」の、抜刀道をこよなく愛し、修練する志士により本連盟は「創立結成」された…。この時点で協議会は《発起人会》に移行吸収され「日本抜刀道連盟」が誕生し活動を開始した。

平成4年(1992年)6月28日。創立1周年『第1回日本抜刀道連盟全国大会』が、現在の連盟総会場の場所(当時：桜田小学校→現在：生涯学習センター)体育館で盛大に開催された…。本連盟は、先人の意志を継ぎ、連盟会長を中心とした、役員各位の奮闘により、「NPO から一般財団」までに躍進し…、第26回の全国大会を迎える。私達は、互いに修練に励み《正統抜刀道》として後世に伝承して行こうではないか！…。



副会長 兼 広報部長 中島 正夫

◆事務局 便り◆



事務局 長 菅野 茂

本連盟は、「創立二十五周年」の節目にこの度、NPO 法人から「一般財団法人」に移行いたしました。  
本年は、第二十六回の全国大会と第二回の東京大会が予定されております。  
連盟本部は、本年も引き続き、事業計画の中でも公開している様に、充実した多くの講習会と、年5回の本部主催による段位の審査会等々、会員が活躍できる場を多く提供出来るよう努力しております。  
今後とも、一致団結して連盟を盛り上げ、益々発展するようご協力をお願い申し上げます。

◆広報 便り

【誰もが気づかない発想】 ただ単に活字を「見るのではなく」… 50cmほど離して会報の1枚を眺めてほしい…。 写真を挟んで活字を縦横に巧みに組み合わせ、絵画を眺める様な『絵心の発想』で一枚の作品として「構成・編集」がなされています。 抜刀道を通じてご自分の人生記録をセロケースに入れて肌片隅に飾るもよし。 名刺がわりに「COPY」して記念に配布するもよし。この様な「男のロマン」を勝手に抱き「連盟発展」の為、日々真夜中まで会報作りは続きます…。